

戦国の武将 池田氏って？



池田充政（大広寺蔵）

池田氏ってだれ？

池田氏は、もともと池田の地に
住んでいた一族で、今から700
年以上も前の鎌倉時代の古文書に
その名が見られます。

池田氏がいた時代

1300年代の中ごろから15
73年までを、京都の室町に足利
氏を將軍とする幕府があったため
「室町時代」とよんでいます。

しかし、將軍の力がじよよに
弱くなり、1467年に、將軍をさ
さえる武將たちが権力争いを
はじめました。これが応仁の乱で
す。

最初は室町幕府で高い地位に

あつた武將どうしの権力争いだった
のですが、そのうち、ほかの武將
や家来までもが権力争いに加わり
ました。応仁の乱はいったんおさ
まりましたが、幕府の要職を務
めていた細川氏が幕府の実権をに
ぎるようになりました。しかし、

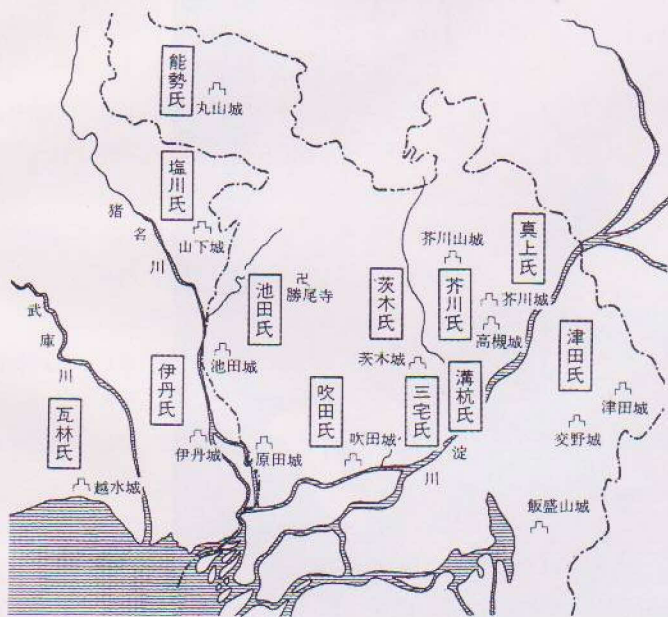
細川氏内部の権力争いがおこつて
しまい、この争いは各地の武將た
ちをまきこみ、やがて世の中は
戦国時代へとなだれこみました。

1500年代の後半になると、
しだいに支配する範囲を広げて権
力をつけていく武將たちがあらわ
れました。現在の山梨県あたりに
武田信玄、広島県あたりに毛利

元就、新潟県あたりには上杉
謙信などがいました。そして、
愛知県あたりにいた織田信長が
支配地を広げて強大な力をもつ
ようになり、日本の統一をめざし
ました。

戦国時代と摂津の国人

細川勝元は応仁の乱のきつかけ
をつくつた武將で、摂津国（今の
大阪府北部、兵庫県南東部）の守護
に任じられ、幕府から摂津国の支
配をまかされていました。しかし、



摂津国の国人・城分布

勝元の死後、子の細川政元の代になると細川氏の内部で権力争いがおこり、摂津国でしばしば戦いがおこりました。

摂津国にかぎらず、各地には將軍や守護の家来として市町村これらの範囲を支配する武士たちがいました。摂津国では池田氏、伊丹氏、吹田氏、茨木氏、高槻の芥川氏のせし能勢氏といった武士たちです。

こうした武士たちのことを「国人」とよんでいます。

將軍の弱体化により細川氏らの権力争いがおこると、国人たちはそれぞれ敵、味方に分かれ、争いに加わりました。

池田城ってどんな城？

戦国時代の城

城といえ、大阪城や姫路城といった姿を思いうかべるでしょう。高い石垣があり、5階建の天守閣、その周囲には2階建や3階建のやぐらが取りかこむ姿・・・

しかし、こうした城は戦国時代が終わってからつくられた城です。戦国時代、各地で戦いが行われていたころの城は、まったくちがったものでした。

戦国時代は、国人やその家来も城をつくりました。また、村人が戦争から逃れるための城もありました。この時代の城のほとんどは、

堀を掘り、土を盛り上げ、そのま

わりには柵や板のへいをめぐら

したものです。建物は城主が住

む屋敷のほか、小屋や木を高く組

んだ見張り用の建物などで、天守

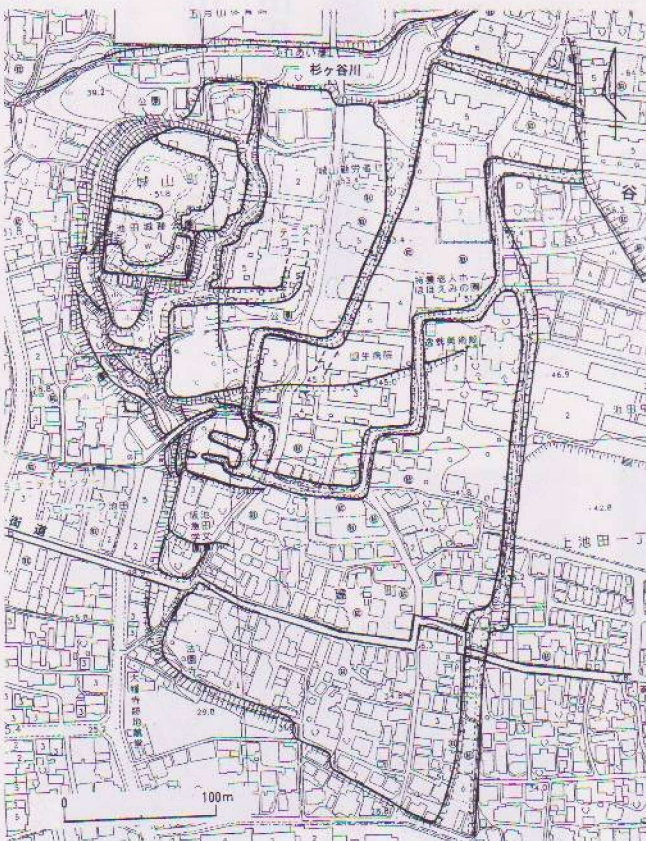
閣はありませんでした（村人の城

や見張り用の城の場合、建物は簡

単な小屋だけだったようです。

池田城はこんな城

池田城は、現在の城山町、建石町のある台地にあり、東西330m、南北550mの大きさでした。城の北側から西側・南側は急な崖で、東側はいくつもの堀



池田城の範囲



主郭の庭園

が掘られていました。こうした崖と堀で敵の攻撃を防いだことがわかります。

城の中心で城主が住む場所は主郭とよばれ、特に大きな堀を掘り、さらにその内側には土手のように土を盛り上げていました。現在、城跡公園になっています。主

郭には礎石をもつ建物跡、排水溝、庭園、井戸などがありました。主

郭以外のところでは、一部で主郭にあったような礎石建物も認められますが、ほとんどが簡単な小屋だったようです。また、鉄器作りの道具が見つかっていますので、矢じりなどの武器を作っていたのかもしれない。

城の南には人々が通行できる道が横切っており、道に沿って民家や寺がありました。ここには池田氏と深いかかわりをもった人々が住んでいたのではないかと思われます。また、城の中を横切る道は、戦いがおこった時これをふさぐ

ことで、敵の通行をさえぎることができました。

池田城を攻めた軍は？

池田氏はどうなった？

大内軍の攻撃・最初の落城

1467年、応仁の乱がおこった時、城主であった池田充政は細川勝元の家来でした。そのため、

1469年、細川氏と争った山名氏の味方で現在の山口県にいた守護、大内軍に攻められ、池田城は落城しました。大内軍はすぐに池田城を去ったため、充政は城に復帰することができました。

細川高国の攻撃・2度目の落城

細川勝元の死後、子の政元が細



細川政元(竜安寺蔵)

川家をつぎ、幕府の実権をにぎるまでに権力をもちました。しかし政元の3人の養子、澄之、澄元、高国が権力争いをし、幕府の衰退をまねきました。池田氏は澄元についたため、1508年、高国軍に攻められました。高国軍の激しい攻撃によくたえましたが、池田

正盛が高国へ寝返ったことがきっかけで、池田城は落城しました。

城主の池田貞正は切腹し、池田正盛が城主になりました。

貞正の子、池田城を取りもどす

1519年、池田城を脱出していた貞正の子三郎五郎（信正と

推定される）が有馬で兵をあげ、高国に味方する池田正棟らを打ち

負かして池田城を取りもどしました。

細川澄元の死後、子の細川晴元が高国と争います。池田信正は晴元についたため、1531年、細川高国に池田城を攻撃されて落城してしまいました。

池田信正の切腹

高国の死後、細川氏綱が晴元と

争います。信正は晴元を裏切つて

氏綱についたものの、氏綱が劣勢

になると再び晴元の味方になる

うとしました。しかし晴元はこれ

を許さず、1548年、信正を切

腹させました。池田氏はこの事件

をきっかけに晴元と敵対しました。



三好長慶（聚光院蔵）

織田信長の攻撃

晴元の有力家臣であった三

好長慶が、細川氏綱に味方して晴

元を退け、畿内支配の実権をに

ぎりました。信正の後に城主に

なった池田長正は三好氏につきま

した。

1568年、京の都に入った

織田信長は、三好氏の勢力をつ

ぶすため、摂津国へ攻め入りました。

長正の後に城主になった池田

勝正は織田軍の攻撃にたえまし

たが、織田軍は町に火をつけて

猛攻撃をし、勝正はたえかねて

降参し信長の家来になりました。



織田信長（神戸市立博物館蔵）

池田勝正が追放される

織田信長の家来になった池田氏は北陸の朝倉氏や但馬、播磨方面

（現在の兵庫県）の攻撃に参戦させ

られました。その間、池田氏内部

では、荒木村重ら三好氏に味方す

る勢力が、1570年、勝正を追

放して織田に味方する勢力を排除

しました。池田氏は再び三好氏の味方になりました。

池田城が廃城になる

荒木村重は主の池田勝正追放の後、勝正の弟の池田知正を城主にし、池田城を支配しました。その後、高槻の和田氏や茨木氏を滅ぼして支配地を広げました。



荒木村重(伊丹市立博物館蔵)

1573年、村重は突如、織田

信長の家来になり、摂津守として

信長から摂津国の支配を任されて

戦国大名になりました。そして、

翌年には伊丹氏を倒して伊丹に

有岡城を築き、池田城から有岡城

に摂津国支配の拠点を移しました。

こうして、池田城は廃城となり

ました。廃城後、池田知正、養子

の池田三九郎ら池田一族の一部は

池田にいたようですが、江戸時代

に入ると歴史からその姿を消して

しまいました。

荒木村重も滅びていった

摂津国を任されていた村重は、

1578年、織田信長に敵対し、

池田知正(大広寺蔵)



した堅固で大きな城であったため、

織田軍はなかなか攻め落とすこと

ができず、攻防は一年以上も続き

ました。やがて、頼みの毛利方の

援軍もなく有岡城の兵力は衰え

はじめ、村重は城を脱出、主を

失った有岡城は落城し、妻や子

らは捕らえられて処刑されました。

織田信長の信頼を得ていた荒木

村重がなぜ信長を裏切ってしまった

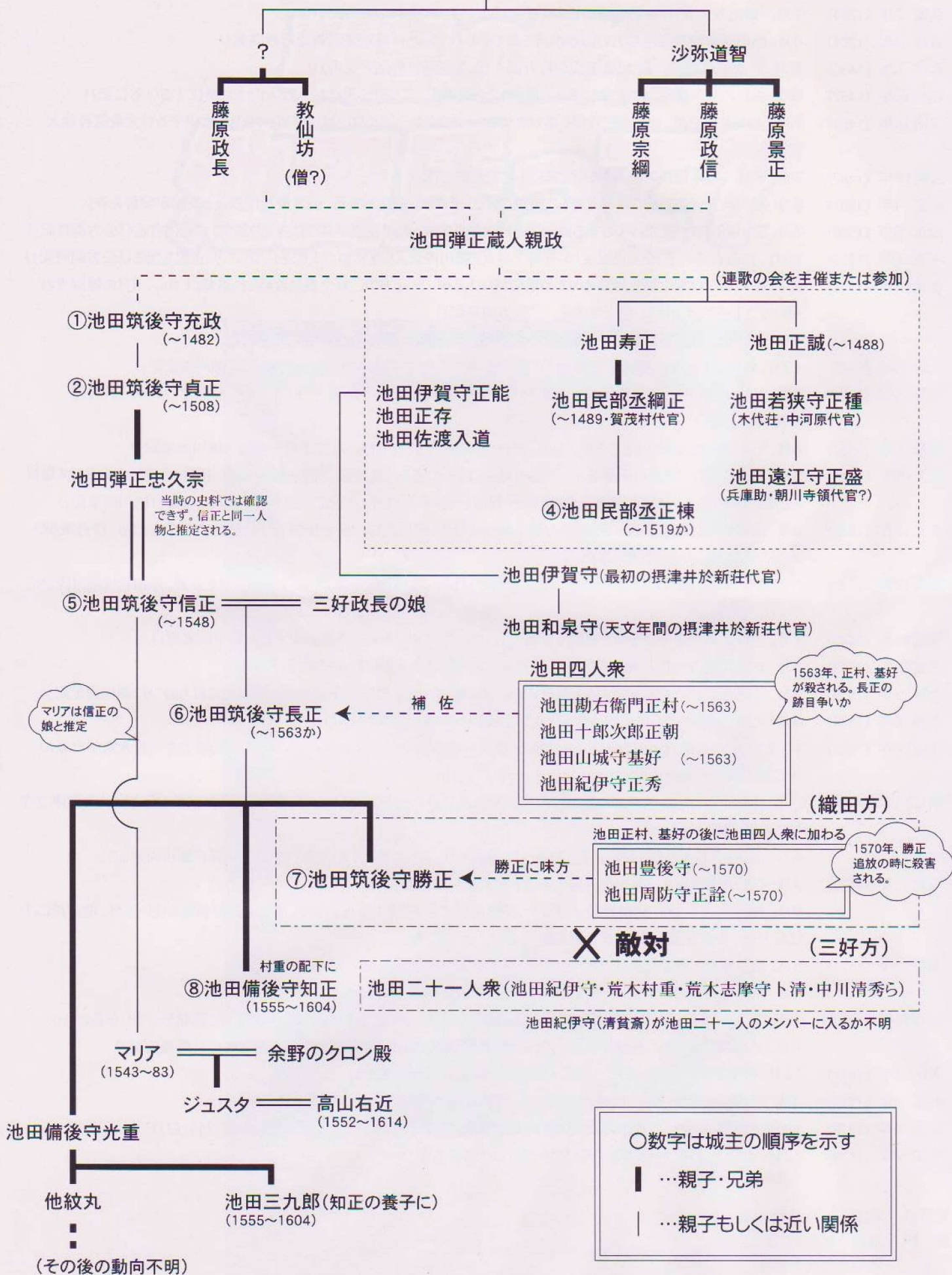
のか、かならずしも明らかに

されてはいません。

信長と争っていた本願寺、中国地方で大きな力を持っていた毛利氏と手を組みました。怒った信長は、村重の立てこもる有岡城を包囲し、自ら廃城になっていた池田城に陣を敷き、攻撃の拠点としました。しかし、有岡城は町全体を城郭に

史料から見た池田氏の関係

呉庭荘の中で力をつけた一族



池田氏関係年表

弘安 7年 (1284)	7月、「勝尾寺文書」に池田右近尉藤原政長の名がみえる<史料に池田氏が登場>
貞治 2年 (1364)	6月、池田親政が賀茂村(川西市)の半済をあてがわれていた(「將軍足利義詮御教書案」)
永享 8年 (1436)	勝尾寺「歳末巻数賦日記」に池田氏が有力国人として登場(「勝尾寺文書」)
応仁元年 (1467)	6月、応仁の乱が勃発。西軍大内軍の上洛にあたり池田氏、三宅氏ら摂津国人は大内方に降伏する(「応仁記」)
文明元年 (1469)	7月、大内軍再上洛。池田城を攻撃し落城させる。大内軍はしばらく池田城に駐留し10月に撤退する(「大乘院尋尊大僧正記」)
文明19年 (1487)	3月、政覚一行が池田の倉、庭をみて驚く(「政覚大僧正記」)
永正 4年 (1507)	6月、細川政元、澄之派の香西元春らに暗殺される。その後、澄之と澄元、澄之没後は澄元と高国が家督を争う。
永正 5年 (1508)	5月、細川高国軍が澄元に味方する池田氏の池田城を攻撃、池田正盛が高国に寝返り落城。貞正は自害(「公方両将記」)
永正16年 (1519)	10月、池田貞正の子(信正と推定)が有馬で挙兵。細川澄元より豊島郡の支配を任せられ弾正忠を賜る(「公方両将記」)
永正17年 (1520)	2月、細川高国は越水城の後詰めのため池田城に入るが、澄元方の三好之長に攻められ退却。しかし、5月の等持寺の戦いで之を長を敗死させる。澄元は敗走 (「公方両将記」)
—— この間、信正が澄元方から高国方へ鞍替えし池田城へ入城したものと推定される ——	
大永 6年 (1526)	12月、池田信正、細川高国の命令で八上城の波多野氏を攻めるものの、高国を裏切る(「細川両家記」)
享禄 4年 (1531)	3月、細川高国が伊丹城、池田城を落城させる。6月、高国が天王寺の戦いで敗北。尼崎大物にて捕らえられ自刀(「細川両家記」)
享禄 5年 (1532)	8月、一向宗が池田城包囲。12月、池田、伊丹が同盟して摂津下郡の真宗道場を放火(「細川両家記」)
天文10年 (1541)	9月、塩川伯耆守、波多野氏が晴元へ反旗を翻す。塩川の籠の一蔵城を三好長慶らが包囲。伊丹、三宅、木沢長政ら塩川を応援。池田氏は一蔵城へ出陣せず池田城へ籠城。三好軍撤退後、木沢は池田方の原田城を攻撃(「細川両家記」)
天文15年 (1546)	8月、池田信正は遊佐長教の調略により細川晴元に背き、細川高国の養子氏綱につく。晴元方の三好加助、伊丹衆らが池田の市庭を放火する(「細川両家記」)
天文17年 (1548)	5月、信正は細川晴元に寝返りを許されず自害させられる。これを機に池田より三好政長一派を追放。池田氏は細川氏綱につく(「言継卿記」)
天文18年 (1549)	1月、三好政長が多田衆を引き連れて反晴元方になった池田を攻め市場を放火する(「細川両家記」)
天文22年 (1553)	8月、細川晴元方の浪人衆が多田塩川衆とともに池田に攻め入る(「細川両家記」)
永禄 2年 (1559)	6月、三好長慶と摂津国人らが畠山高政・安見宗房攻撃。7月、池田衆が安見方の遊佐衆に打ち勝つ(「細川両家記」)
永禄 6年 (1563)	3月、池田で内紛があり池田四人衆のうち2人が殺害される(「言継卿記」ほか)
永禄10年 (1567)	10月、三好三人衆、松永久秀との争いで池田勝正が奈良東大寺辺へ出陣。三人衆が陣取る東大寺へ松永衆が攻め入り大仏殿が炎上(「細川両家記」)
永禄11年 (1568)	9月、織田信長上洛。その後摂津に侵攻し池田勝正降伏(「信長公記」ほか)。勝正は伊丹親興、和田惟政とともに摂津三守護になる(「続応仁後記」)
	8月、池田、伊丹衆が織田軍とともに但馬へ出兵。10月、池田、伊丹、和田衆が播磨へ出兵(「細川両家記」)
元亀元年 (1570)	4月、信長の朝倉攻めに池田勝正軍3,000人が同行(「言継卿記」)
	6月、池田二十一人衆、池田豊後守、周防守兩人を自害させて勝正を追放する。勝正は三好義継に従い上洛。池田城には三好長逸、石成友通らが入る(「言継卿記」)
元亀 2年 (1571)	8月、細川藤孝が池田城を攻める。池田勝正は原田城へ入る(「元亀二年記」)
	8月、荒木村重が池田衆を率いて和田惟政、茨木重朝を滅ぼす(フロイス「日本史」)
天正元年 (1573)	3月、高山重友・右近が和田惟長を滅ぼす(フロイス「日本史」)。同月、村重、細川藤孝が信長に忠誠を示す(「信長公記」)
	7月、足利義昭が信長に降伏する。この月までに村重が摂津守に任じられる。浅井・朝倉滅亡(「信長公記」)
天正 2年 (1574)	11月、村重が伊丹を倒し伊丹へ入り、池田城が廃城したと推定される。
天正 3年 (1575)	4月、島津家久が池田城が廃城になっていることを日記に記す(「中書家久公御上京日記」)
天正 6年 (1578)	10月、村重謀反を起こし有岡城に籠城。信長は有岡城攻めのため「古池田」に陣を敷く(「信長公記」)
天正 7年 (1579)	12月、有岡城落城。村重の妻子らが処刑される(「信長公記」)

発行日 平成20年 7月 15日

発行 池田市城南1丁目1番1号

池田市教育委員会

編集 教育部生涯学習推進室 社会教育課